資料２

# 第39回世界遺産委員会決議　保全状況報告（案）について

**決議項目６**

| |
|---|
| ○　更に締約国に対し、ルシャ川の３つのダムの影響を十分に緩和するため、地方自治体及び地域住民と緊密に協議しつつ、これらのダムについて完全撤去という選択肢の検討を含む更なる改善を継続すること、また、水面下のコンクリートの除去という選択肢も検討すること、更に、表流水と伏流水の正常な流れを回復させるとともに河川の枝別れや蛇行化を促進することでサケ科魚類の産卵環境を改善させるために、旧孵化場に通じる道路や橋を完全に廃止・撤去することを、強く勧める（urges）。 |

**①　ダムの更なる改良の検討について**

・　治山ダムの改良については、サケ科魚類の産卵環境の改善と、既存の治山ダムが、河口付近にある定置網漁場等に対して、これまで果たしてきた防災機能を今後も維持させる事を条件に検討を行ってきた。
（治山ダムの設置の経緯及び改良の経過については、別添１：知床世界自然遺産内のルシャ川の治山ダムについてのとおり）

・　2015年にはダムの堤体の一部を基礎部まで切り取ることによるダム設置区間での産卵適地の変化や防災機能への影響について水理模型実験による確認を行った。結果としてダム設置区間での伏流水回復や産卵環境の改善に一定の効果が認められたが、流下土砂量の増加も見受けられた。今後は産卵環境の改善と防災機能への影響を含めた長期的な変化を想定したシミュレーションにより、河川の自然な流れの回復による河川環境の変化や過去の災害時と現況の荒廃状況や森林の変化について調査を行う予定である。

・　これらの実施や検討にあたっては、河川工作物アドバイザー会議*等において専門家から科学的助言を受け、かつ地域関係者等との意見交換により理解と協力を得ながら、サケ科魚類の産卵環境の改善と、河口付近にある定置網漁場等への防災機能の維持が可能な改良について検討を進めていく。

＊河川工作物アドバイザー会議について
知床世界自然遺産地域科学委員会の下に設置された会議。河川環境、サケ科魚類や砂防工学等の専門家及び関係行政機関等で構成され、河川工作物の改良工事及びモニタリングについて、工事に関する技術的助言及び適正なモニタリング評価実施のために科学的視点から助言を行う。

### ② 橋と道路の取扱いについて

・　橋等については、現在、漁業者など地域住民により利用されているほか、人命救助などのため緊急的な利用もされていることから、サケ科魚類の産卵環境改善に向けた取組と車両の通行を確保することの両立を検討していくことが、当面必要な状況にある。

・　ルシャ川においては、車両の通行を確保しつつ、産卵環境の改善との両立を図るため、産卵環境を充実しつつ河床低下を制御するなどの機能を持った河床路による対応の可能性について検討しており、今後、河床路の設置による実証実験に向け、さらに検討を深める予定である。

・　今後、河床路での通行の可能性が具体的になった段階で、橋等の取扱いを含め産卵環境の改善を検討するとともに、地域関係者との合意形成に向けた取組を開始する予定である。

### ③ ルシャ地区における将来の姿

・　当該ルシャ地区については、知床世界自然遺産地域の核心地域に位置しており、産卵環境を改善し産卵床を増やすなど、より自然に近い形に戻すことを指向し、これに向け、現在の番屋の維持、或いは漁業の持続的な発展にも配慮し検討を進める。

・　また、上流のダムと河口付近の橋等については、当該地域沿岸域の漁業活動等を持続的に行っていくため措置しているものであるが、上述のとおり、将来的に自然に近い形に戻すことを目指す中、現段階の取組として、ダム改良や河床路の検討を行っているところであり、引き続き、地方自治体及び地域住民と協議を重ね、将来の姿に向けた取組を行っていくこととしている。

**決議項目７**

| |
|---|
| ○　締約国及びIUCNのSSCサケ科魚類専門家グループに対し、現在得られる最善の科学的知見に基づき、最も適切かつ実践可能な解決策に関するコンセンサスを見出すこと、及び、これらの課題に関する助言を行うＩＵＣＮの諮問ミッションを招聘する可能性を検討することを勧告する（recommends）。 |

**①　専門家等による現地検討など**

これまで、河川工作物アドバイザー会議を定期的に開催し、当該地域のダム改良及び橋等の取扱い、産卵環境の改善などについて、現地検討及び議論など行っている。

**②　今後の予定**

上記の専門家らによる科学的知見に基づく検討を既に開始しているところである。

現在のところ、ダム３基の改良等について、具体的な改良方法の決定に向け協議している段階にあることから、ミッション招聘を判断する段階にない。

今後、ダム３基の改良方法や橋等の取扱いの具体的な検討が進み、ルシャ川の課題解決が見えてきた段階で、ミッションを招聘することを検討したい。

別添１

# 知床世界自然遺産内のルシャ川の治山ダムについて

## １　ルシャ川の概要

ルシャ川は北海道東部の知床半島北東部に位置する流域面積約21km2, 流路長約8.8kmのオホーツク海へと流れる普通河川です。

斜里町は、サケ・マスの漁業が中心で、昭和40年代前半から資源確保を図るためルシャ川下流域でふ化放流事業に取り組み整備を進めていた。

しかし、ルシャ川上流部から降雨毎に流れ出る土砂や流木により、ふ化施設や定置漁業は毎年被害を受けていた。（表－１）

現在のルシャ川の様子（写真-１）

## ２　治山ダム設置の経緯

1972年11月の低気圧による豪雨で、ふ化施設の流失や定置網の破損等の被害が発生したことなどから、地元斜里町や漁協から治山ダムの設置等に関する強い要望があり、道は1974年から複断面型治山ダム3基を整備した。

取り組みの経緯は次のとおりである。

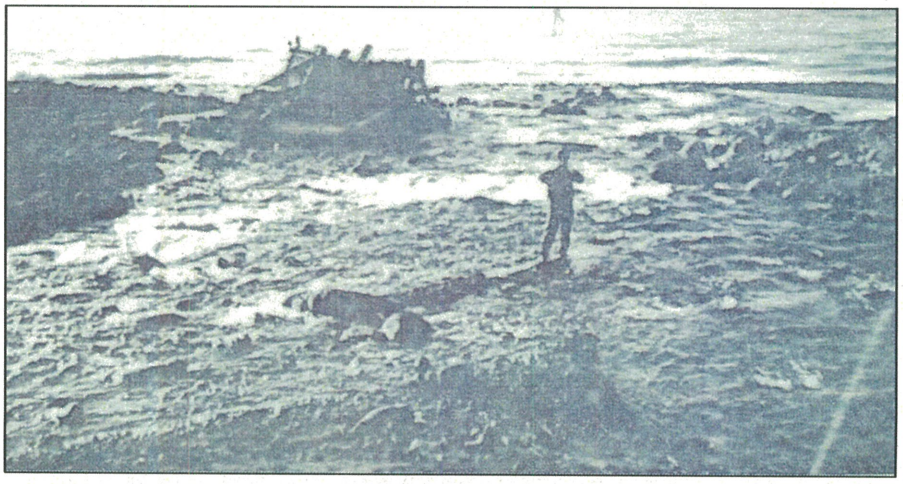
・1972 年 11 月 21 日　豪雨（97mm/日）により土砂が流出し、ふ化施設の流失のほか定置網等への被害が発生

・1973年10月13日　豪雨（160mm/日）により、流木が沿岸に流出し、定置網漁業への被害のほか、ふ化施設、林道木橋が再度流失する被害が発生　（写真－２）

・1974 年～1979 年　治山ダム３基を設置　（写真－１）

ルシャ川沿岸の漁業施設の被災履歴　表－１

| 年　度 | 被　災　内　容 | 被害額（千円） |
|---|---|---|
| 1970 | ボサ羅網<br>漁獲被害(推定) | 134,579 |
| 1971 | ボサ羅網<br>漁獲被害(推定) | 81,937 |
| 1972 | ボサ羅網<br>漁獲被害(推定)<br>畜養池流出<br>管理舎破損 | 44,768 |



1973 年 10 月　漁場の捕獲施設や木橋倒壊の被害状況　（写真－２）

## 3　治山ダムの目的と成果

・治山ダムは、不安定土砂の移動を防止することで、森林を維持し造成することを目的に作られる工作物。

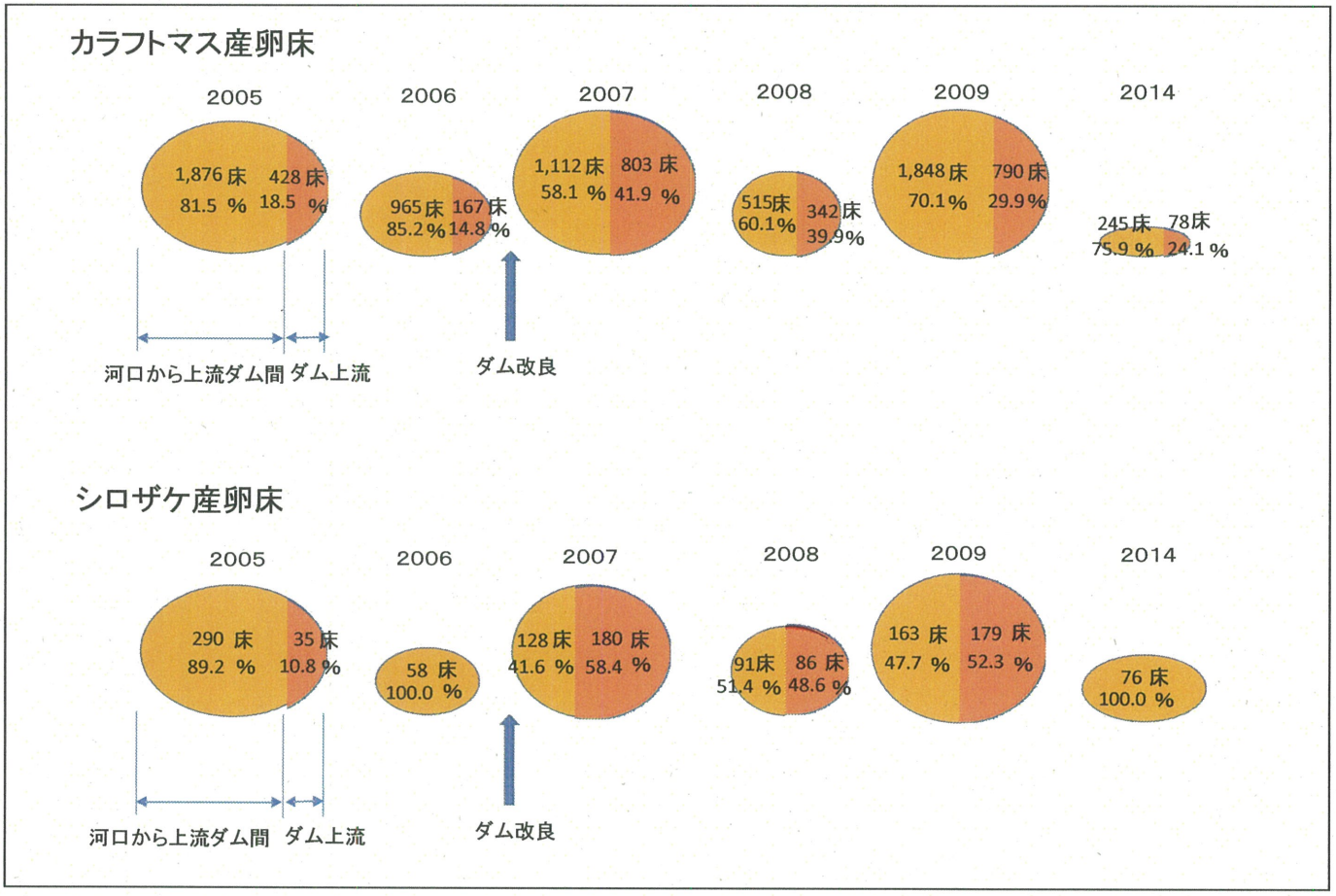
・治山ダムの施工にあたり、土砂や流木の流出による漁業被害の防止に加え、サケ・マスの遡上や自然景観に配慮して、3 基 1 群の低ダム群工法を採用するとともに、放水路を複断面化した。

・治山ダムの施工後 40 年が経過し、当時と現在の撮影された写真を見比べると、土砂の移動が抑制され、植生が回復したことを確認している。現在も、治山ダムの抑制効果は継続されている。

## 4　世界自然遺産登録後の経緯

・知床世界自然遺産の登録にあたり、2004 年 8 月　国際自然保護連合（IUCN）から、「サケの自由な移動を確保するための魚道を設置すること」の書簡を受け、平成 18 年度に、治山ダム 2 基の「切り下げ・切り欠き」を実施。

・改良後に実施されたモニタリングの結果、カラフトマス・シロザケの産卵床の数に増加が確認されるとともに、ダム上流部に作られる比率も、改良前に比べて増加している。特にシロザケは上流部での産卵床の数が増加しており、改良による一定の効果を確認。（表－２）




ルシャ川治山ダムの改良効果（産卵床の推移）　（表－２）

別紙

## ○今後の対応スケジュールについて（未定稿）

| 月 | 河川工作物AP | 海域WG | 科学委員会 | 地元関係 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | ルシャ川検討会<br>・ダム改良の検討<br>・橋と道路の取扱い検討<br>・今後の対応<br>・保全状況報告（案）の対応状況 | | | ＊地元対応 | |
| 7 | | | | | |
| 8 | H28　第1回会議<br>・ルシャ川の改良方向性<br>・保全状況報告（案）の説明 | H28　第1回会議<br>・保全状況報告（案）の説明 | H28　第1回会議<br>・保全状況報告（案）の概要説明 | ルシャ川の対応方向等 | |
| 9 | | | | 地域連絡会議<br>・保全状況報告（案）の概要説明 | 下旬：保全状況報告　和文完成 |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | 上旬：保全状況報告　英文完成<br>中旬：外務省に提出<br>下旬：ユネスコに提出 |
| 12 | | | | | 世界遺産センター提出〆切<br>2016／12／1 |
| 1 | H28　第2回会議<br>・保全状況報告の提出報告 | | | | |
| 2 | | H28　第2回会議<br>・保全状況報告の提出報告 | H28　第2回会議<br>・保全状況報告の提出報告 | | |
| 3 | | | | 地域連絡会議<br>・保全状況報告の提出報告 | |

**参考資料**

# 2015 第 39 回世界遺産委員会　知床に関する決議について

決定：39　COM 7B.13　（仮訳）

世界遺産委員会は、

1．作業文書WHC-15/39.COM/7Bを検討し、

2．第 36 回遺産委員会における決定 36COM 7B.12 を想起し、

3．日本海や資産内におけるトドの健全な個体群を維持するための締約国の努力に留意し（notes）、資産内及びより広域な海上景観において安定～増加するトドの個体数を維持するために、採捕上限頭数を定期的に点検・調節するよう、強く勧める（urges）。

4．報告されている河川工作物の改良がもたらした好影響について賞賛を持って留意する（notes with appreciation）一方で、2012 年の第 36 回会合における世界遺産委員会の要請通りに、ルシャ川のダムについて追加的な改善が行われていないことについて、特にこれらのダムが下流側の河床やサケ科魚類の産卵環境の利用可能性に負の影響を与えているという締約国自身が留意している懸念に照らして、懸念をもって留意する（notes with concern）。

5．自然状態のサケ類の遡上と産卵は、「海域と陸域の生態系の相互作用の顕著な例」であり、本資産に不可欠であると考える。また、2012 年にルシャ川河口の孵化場が撤去されたことにより、3 つのダムによる災害リスク削減に係る利益よりも、本資産の顕著な普遍的価値に及ぼす影響の方が大きくなっていると考える（considers）。

6．更に締約国に対し、ルシャ川の 3 つのダムの影響を十分に緩和するため、地方自治体及び地域住民と緊密に協議しつつ、これらのダムについて完全撤去という選択肢の検討を含む更なる改善を継続すること、また、水面下のコンクリートの除去という選択肢も検討すること、更に、表流水と伏流水の正常な流れを回復させるとともに河川の枝別れや蛇行化を促進することでサケ科魚類の産卵環境を改善させるために、旧孵化場に通じる道路や橋を完全に廃止・撤去することを、強く勧める（urges）。

7．締約国及び IUCN の SSC サケ科魚類専門家グループに対し、現在得られる最善の科学的知見に基づき、最も適切かつ実践可能な解決策に関するコンセンサスを見出すこと、及び、これらの課題に関する助言を行う IUCN の諮問ミッションを招聘する可能性を検討することを勧告する（recommends）。

8．また、締約国に対し、2017 年の第 41 回会合での世界遺産委員会による検討のために、世界遺産センターに 2016 年 12 月 1 日までに、本資産の保全状況や上記の実施状況について、1 ページの要約を含む最新の報告書を提出するよう要請する（requests）。

**13. Shiretoko (Japan) (N 1193)**

**Decision: 39 COM 7B.13**

The World Heritage Committee,

1. Having examined Document WHC-15/39.COM/7B,

2. Recalling Decision **36 COM 7B.12**, adopted at its 36th session (Saint-Petersburg, 2012),

3. Notes the State Party's efforts to maintain a healthy population of Steller's Sea Lion in the Sea of Japan and in the property, and urges the State Party to ensure that catch quotas are regularly reviewed and adjusted to maintain a stable to growing population of sea lions in the property, and in the wider seascape;

4. Notes with appreciation the reported positive impacts from the modification of river structures, however, notes with concern that no further modifications to the dams on the Rusha river have taken place as requested by the Committee at its 36th session in 2012 (Decision **36 COM 7B.12**), in particular in light of the State Party's noted concerns about negative impacts from these dams on the downstream river bed and the availability of salmonid spawning habitat;

5. Considers that a natural salmonid migration and spawning behaviour are vital for the property to serve as an "outstanding example of the interaction of marine and terrestrial ecosystems", and also considers that, with the removal of the salmon and trout hatchery at the mouth of the Rusha river in 2012, the benefits of the three check dams for disaster risk reduction are outweighed by their impacts on the Outstanding Universal Value (OUV) of the property;

6. Also urges the State Party to continue further modifications of these dams, including consideration of the option to fully remove them, in close consultation with the local authority and communities, in order to fully mitigate the impacts of the three dams on the Rusha river, to also consider the option of removing the concrete below surface level, and to fully decommission the road and bridge that lead to the former hatchery, in order to restore normal flow of surface and ground water, and to promote river braiding and meandering to improve salmonid spawning habitat;

7. Recommends the State Party and the IUCN SSC Salmonid Specialist Group to seek a consensus based on best available science regarding the most appropriate and practicable solution and to consider the possibility of inviting an IUCN Advisory Mission to the property to provide advice on these matters;

8. Also requests the State Party to submit to the World Heritage Centre, by **1 December 2016**, an updated report, including a 1-page executive summary, on the state of conservation of the property and the implementation of the above, for examination by the World Heritage Committee at its 41st session in 2017.